

日本語と韓国語の名詞についての研究ノート

金 恩 愛*

要旨 〈表現の自然さ〉という観点からみた時、日本語は韓国語に比べ名詞的な表現が好まれ、韓国語は日本語に比べ動詞的な表現が好まれるという表現様相の違いが認められる。本稿は、日本語の名詞的な表現が韓国語では動詞的な表現として表れやすい要因を再考しながら、日本語と韓国語の名詞の性質について論じる。日本語と韓国語を対照したとき、語彙的な意味において「動詞・形容詞的な用言性が際立つ」複合名詞・派生名詞の場合、そのほとんどが、韓国語では動詞的・形容詞的表現で表れるが、本稿では、その一要因として韓国語の複合名詞や派生名詞の場合、基本的に動詞・形容詞的な用言性が抑えられた「モノ」的性質の名詞類が多いということを示唆した。また、表現の自然さという観点から対応すると認められる〈日本語の名詞的な表現と韓国語の動詞的な表現〉について文構造の側面から捉え直し、日本語は〈集中型〉構造を好み、韓国語は〈分散型〉構造を好むことを指摘した。

キーワード 名詞の性質、用言性、文の構造、集中型、分散型

1. 日本語の「コト性」名詞 vs. 韓国語の「モノ性」名詞

日本語と韓国語は文法的に非常に似ているが、〈表現の自然さ〉という観点から両言語を照らしたとき、日本語は韓国語に比べ名詞（体言）を中心とした表現が好まれ、韓国語は日本語に比べ動詞（用言）を中心とした表現が好まれるという表現様相の違いが指摘されている（梅田（1982）、林（1995）、宋（1998）、生越（2002）、金（2003、2006、2009）など）。

以下、日本語の名詞的な表現が韓国語で動詞的な表現で現れる例を見てみよう（用例は、金恩愛（2003、2006、2009）からの再引用である）。

- (1) 〈忙しさ〉がどんなに増しても彼女の治す力は減りはしない。（とかげ／37）
아무리 바빠져도 그녀의 ~ (도마뱀／36)
(lit. どんなに忙しくなっても彼女の～)
- (2) その日は、どこまでも〈青空〉が続いてい

* 福岡県立大学人間社会学部・講師

た。

그 날은 푸른 하늘이 끝없이 이어졌다.

(lit. その日は青い空がどこまでも続いて
いた)

- (3) 〈早起き〉をし、九時頃家を出ようとした。
일찍 일어나 9시쯤 집을 나오려고 했다.
(lit. 早く起きて 9時頃家を出ようとした)

- (4) なんか〈探し物〉?—うん、ちょっと〈忘れ物〉。
뭐, 찾는 거야?—응, 뭐 좀 잊어버려서.
(lit. なにか探してるの?—うん、なにか
ちょっと忘れてしまって)

- (5) 恋がおもしろいなんて、そりゃ〈初耳〉だ。
(A2Z/63)
사랑이 재밌다니, 그런 소린 처음 듣는군.
(A2Z/64)
(lit. 恋がおもしろいなんて、そんなことは
初めて聞く)

- (6) いつも〈薄化粧〉の彼女だが、今日は〈厚化粧〉をしている。
항상 화장을 연하게 하는 그녀가 오늘은
화장을 진하게 했다.
(lit. いつも化粧を薄くする彼女が今日は
化粧を濃くした)

- (7) あんたの猫背は〈母親譲り〉ね。(インスト
ール/82)
너, 그 새우등, 엄마 닮은 거지. (인스톨/
90)
(lit. あんたそのエビ背、母似ているんで
しょう)

日本語と韓国語を対照したとき、語彙的な意味において、「動詞・形容詞的な用言性が際立つ」複合名詞・派生名詞の場合、そのほとんどが、韓国語では「動詞的・形容詞的表現」で現れる。

日本語の名詞の中には、語彙の意味において「めがね」「傘」「本」のように具体的な事物の名を表す「モノ」的な性質を持つ名詞もあれば、上記の「忙しさ」「青空」「早起き」「忘れ物」などのように、動詞・形容詞的な性質を持つ名詞もある。ここでは、金(2003:9)に倣い、名詞の中で「用言性が際立つ複合名詞・派生名詞」を〈重名詞 (heavy noun)〉と呼んでおく。

それでは、なぜ日本語の重名詞は、韓国語で用言的な表現で表れやすいかについて考えてみたい。今後さらに慎重な検討が必要であるが、現段階で指摘できることは、韓国語にも複合名詞や派生名詞は存在するが、日本語のような「用言性の際立つ重名詞」はあまり発達していない点である。以下、例を見よう(韓国語のローマ字表記は、Yale方式による)。

외할머니 (母方の祖母)

oy+halmeni ((母親方+お祖母さん)

큰아버지 (父の兄弟(長男))

kh-n+apeci (大きい-連体形+父)

붕어빵 (瓜二つ)

pwunge+pang (鯛+パン)

말기코 (鼻先の赤い鼻)

ttalki+kho (イチゴ+鼻)

삼겹살 ((豚肉の) 三枚肉)

sam+kyep+sal (三+層+肉)

책가방 (本を入れるカバン)

chayk+kapang (本+カバン)

거스름돈 (お釣)

kesulu-m+ton (戻す-名詞化語尾+金)
 맨손 (手ぶら)
 mayn+son (接頭辞 (何も無い) +手)
 벽시계 (壁時計)
 pyek+sikey (壁+時計)

る。
 「わけあり商品」
 결함품 (欠陥品)、불량품 (不良品)
 「褒められ肌」
 꿀피부 (蜂蜜肌)

長谷川・李 (2006) といくつかの辞書などを利用した調査と韓国語母語話者としての筆者の素朴な直感では、韓国語の複合名詞や派生名詞は日本語に比べ、基本的に「動詞・形容詞的な用言性が抑えられた「モノ」的性質」の名詞類が顕著であると言える。

例えば、門脇 (2010) が、今後日韓辞書に新たに追加すべき単語として挙げている「ためらい傷」は「ためらう」という用言性を含んでいるが、これについては韓国語でも法医学用語として名詞の形で対応する。

「ためらい傷」 주저흔 (躊躇痕)

たとえ日本語の名詞の中になんらかの用言性が含まれていたとしても、最終的にその意味するところが、動詞・形容詞的な用言性 (コト性) が抑えられ、具体的な「モノの名詞」を表す場合は、韓国語でも名詞の形で対応してい

日本語と韓国語の名詞を対照した時、日本語の名詞は形として名詞の形をとっていても意味的・機能的な面において動詞や形容詞のような用言的な役割も積極的に担うが、韓国語の名詞は、名詞という形をとる以上、「事物の名を表す語」という名詞本来の役割を超えないという特徴が見られる。このような両言語における名詞の性質の違いが日本語の名詞表現が韓国語では動詞表現で表れやすい一要因として働いていると言えよう。

2. 名詞中心の集中型構造vs. 動詞中心の分散型構造

用言性の際立つ日本語の名詞的な表現は、韓国語では用言的な表現で現れやすいが、ここでは、文の構造という観点から日本語の「重名詞的な表現」を捉え直すことを試みる。

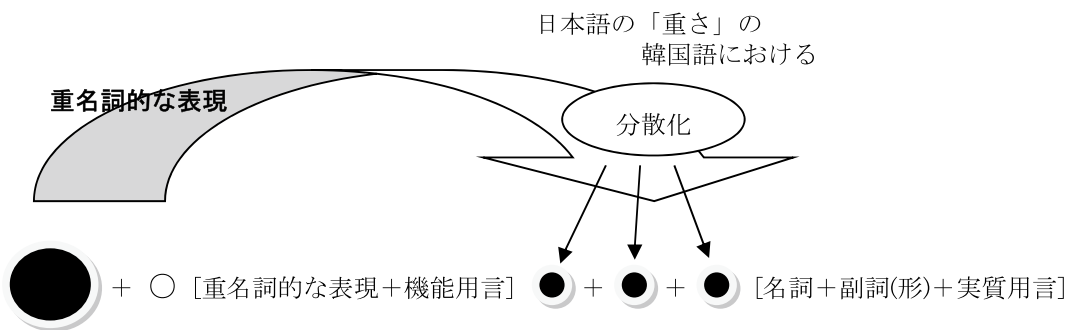


図1 日本語の重名詞的な表現の「重さ」が韓国語では分散される

【初耳】！ (그런 말) **처음 들어!**
 (lit. (そういう言葉) **初めて 聞く**)

【早起き】しよう！ (아침에) **일찍 일어나자!**
 (lit. (朝に) **早く 起きよう**)

【薬の無くなり】が早いね。
약이 금방 없어지네!
 (lit. **薬が すぐ 無くなる**)

【美味しい食べ方】してますね。
참 맛있게 먹네요.
 (lit. **本当に 美味しく 食べますね**)

【すごいきれいな目】をしてるね。
눈이 정말 예쁘다!
 (lit. **目が 本当に 綺麗だね**)

見てこれ、【すごい可愛い靴】だね！
이거 봐! 이 구두 너무 귀엽다!
 (lit. **これ見て! この 靴 すごく 可愛い**)

これ、【すごい重さ】だね！
이거 엄청 무겁네!
 (lit. **これ すごく 重いね**)

図1を見てみると、日本語の「派生名詞」「複合名詞」からなる用言性を含む「重名詞」と、「名詞+の+名詞」「修飾語+名詞」からなる用言性を含む「(重)名詞句」に集中する語彙的な意味の「重さ」を、韓国語では「**名詞**+**副詞(形)**+**実質用言**」のそれぞれの単語に割合均等に分散させている。これは、日本語と韓国語の文の構造を語る上で大変興味深い現象である。韓国語と日本語は基本的に同じSOV構造をとり、修飾語+被修飾語という構造をとるという文法的な類似点を有するが、〈表現の自然さ〉という観点から両言語の文構造を捉え直した場合、確認される表現様相の違いは相当なものである。

日本語の重名詞的な表現が韓国語でいかに現れるかという観点から、仮に、以下のように日本語と韓国語の文の構造を特徴付けることもできよう：

生越(2002:95)では、井上・金(1998)の指摘や生越(2002)の結果から「朝鮮語には主語と述部の情報のバランスを気にする特徴があるのかもしれない。名詞文にすると、述部に新しい情報が集まりすぎてバランスが悪くなる。一方用言文にすると、新しい情報が主部と述部に分かれてバランスのよい文になる」と指摘されている。また、井上(2010)は、韓国語では、意味的に主述関係にあるものは構文的に

日本語：名詞中心の集中型構造

【  】 【怖いもの見たさ】で～

韓国語：バランス重視の分散型構造

[●]+[●]+[●] [뭔가][무서운 걸][보고][싶어]…
 (lit. [何か][怖いもの(を)][見たい] …)

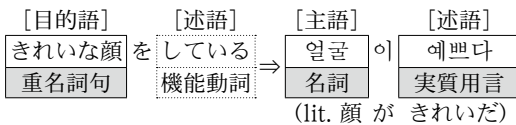
図2 日本語と韓国語の文の構造：集中型構造vs. 分散型構造

も主述関係の形で述べるのが基本であると指摘している(用例は、金恩愛(2003)からの再引用である)。

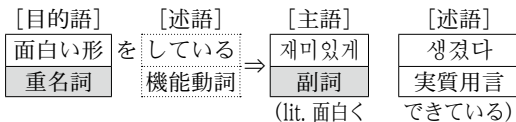
(8) 睦月は短いまつ毛がまっすぐにそろっていて、〈きれいな顔を〉している。(きらきら／9)

무즈키는 짧은 속눈썹이 가지런하고 얼굴이 예쁘장하다. (반짝반짝／11)

(lit. 睦月は短いまつ毛がまっすぐにそろっていて、顔がきれいだ)



(9) ほら、これ、〈面白い形を〉しているよ!
이거 좀 봐. 너무 재밌있게 생겼어.
(lit. 面白くてできているよ)

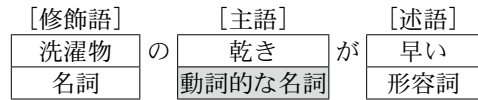


(10) あの時、あまりにも〈恥ずかしい思いを〉したから、もう行きたくないよ。
그때 너무 부끄러웠기 때문에 정말 가기 싫다구!
(lit. あの時とても恥ずかしかったので、本当にいきたくないってば)

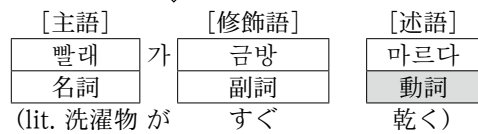


(11) やあ、最近、天気がよくて、〈洗濯物の乾きが〉早いよね。

정말 요즘은 날씨가 좋아서 빨래가 금방 마르지.



(重) 名詞句 [主語]



(表現の自然さ) という観点から対応すると認められる「日本語の名詞的な表現と韓国語の動詞的な表現」について文構造の側面から捉え直した時、日本語は、語彙的意味を担う名詞・名詞句を中心に文が構成され、名詞中心の集中型の文構造をとるが、韓国語は、動詞・形容詞を中心に文が構成され、動詞中心の「主語+(副詞)+述語」といった分散型の文構造をとると言えよう。今後さらなる検討が必要だが、表現の自然さからみた日本語と韓国語における文構造の違いは、両言語における名詞の性質と役割に深く関わっているように見える。つまり、日本語の名詞は「モノ」的名詞だけでなく、動詞・形容詞といった用言性の際立つ「コト」的名詞が非常に生産的に作られ、主語・目的語のみならず、述語としても積極的に機能するが、韓国語の名詞は、日本語に比べ、「コト」的名詞が非常に少なく、基本的に「モノ」的名詞で、主として主語・目的語として機能するという点が、「日本語は名詞中心の集中型構造を好み、韓国語はバランス重視の分散型構造を好む」と

いう文構造における表現様相の違いに影響しているのである。

参考文献

- 井上優・金河守 (1998) 「名詞述語の動詞性・形容詞性に関する覚え書——日本語と韓国語の場合」『筑波大学「東西言語文化の類型論」特別プロジェクト研究報告書』平成10年度Ⅱ。
- 井上優 (2010) 「特集：名詞句の文法——「体言締め文」と「いい天気だ」構文」『日本語学』2010.9 vol.29-11
- 林八龍 (1995) 「日本語と韓国語における表現構造の対照考察——日本語の名詞表現と韓国語の動詞表現を中心として」『宮地裕・敦子先生古希記念論集 日本語の研究』東京：明治書院。
- 梅田博之・村崎恭子 (1992) 「現代朝鮮語の文構造」『講座日本語学10 外国語との対照Ⅰ』東京：明治書院。
- 生越直樹 (1984) 「日本語複合動詞後項と朝鮮語副詞・副詞的な語句との関係」『日本語教育』52号 東京：日本語教育学会。
- 生越直樹 (2002) 「日本語・朝鮮語における連体修飾表現の使われ方」『シリーズ言語科学4 対照言語学』生越直樹編 東京大学出版会。
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』東京：ひつじ書房。
- 門脇誠一 (2010) 「辞書編纂について——主に日韓辞典の編纂をめぐる」『国際シンポジウム韓日・日韓辞典と朝鮮語教育』主催：同志社大学言語文化教育研究センター「朝鮮半島のことばと文化」研究会 (2010年12月18日)
- 金龍 (2008) 『日本語と韓国語における語順の対照研究』ソウル：ヨクラク。
- 金恩愛 (2003) 「日本語の名詞志向構造 (nominal-oriented structure) と韓国語の動詞志向構造 (verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』第188輯 天理：朝鮮学会。
- 金恩愛 (2006) 「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか——翻訳テキストを用いた表現様相の研究——」『日本語教育』129号 東京：日本語教育学会。
- 金恩愛 (2009) 「日本語の「名詞+の+名詞」は韓国語でいかに現れるか——第3の類型について——」『カルチュラル (明治学院大学 教養教育センター紀要)』第3巻1号。横浜：明治学院大学教養教育センター。
- 金恩愛 (2014) 「日本語と韓国語における主語の現れ方について」『福岡県立大学 人間社会学部紀要』第22巻第2号。福岡：福岡県立大学。
- 鈴木重幸 (1972; 1982) 『日本語文法・形態論』東京：むぎ書房。
- 宋美玲 (1998) 「現代日本語と現代韓国語における時間表現の対照研究——「過去の事象」における話者の時間解釈を中心に——」『第149, 150回朝鮮語研究会発表要旨集』東京：朝鮮語研究会。
- 野間秀樹 (1990) 「現代朝鮮語の名詞分類——語彙論・文法論のために」『朝鮮学報』135輯 天理：朝鮮学会。
- 野間秀樹 (1997) 「朝鮮語の文の構造について」『日本語と朝鮮語の対照研究Ⅳ 日本語と朝鮮語 下巻 研究論文編』東京：くろしお出版。
- 塚本秀樹 (1997) 「語彙的な語形成と統語的な語形成——日本語と朝鮮語の対照研究」国立国語研究所 (編) 『日本語と外国語との対照研究Ⅳ 日本語と朝鮮語 (下巻) 研究論文編』東京：くろしお出版。
- 角田太作 (1996) 「体言締め文」『日本語文法の諸問題——高橋太郎先生古稀記念論文集』東京：ひつじ書房。
- 長谷川由起子・李秀京 (2006) 『韓国語初級教材の語彙調査——教科書15種に現れた語彙的学習項目』東京：白帝社。
- 姫野昌子 (1993) 「日本語教育における「の」の指導」『日本語学』第12巻第11号 東京：明治書院。

油谷幸利 (2003) 『日韓対照言語学入門』 東京：白帝社.

油谷幸利, 門脇誠一, 松尾勇, 高島淑郎 編 (1993; 1997) 『朝鮮語辞典』 東京：小学館.

남기십, 고영근 (1985) “표준국어문법론” (標準国語文法論) 서울: 탑출판사 .

남길임 (2001) “이다구문연구” (韓國語における「だ構文」の研究) 서울: 연세대학교 대학원 국어국문학과 박사학위논문.

서울大學校 語學研究所黃燦鎬, 李李順, 張爽鎭, 李吉鹿 (1988) “韓日語 對照分析” 서울: 明志出版社.

연세대학교 언어정보개발연구원 (1998) “연세 한국어 사전” (延世韓國語辭典) 서울: 두산동아.

이홍식 (1996) “국어 문장의 주성분 연구” (韓國語における文の主成分の研究) 서울: 月印.

조희철 (1999) “진명 뉴밀레니엄 일한사전” (日韓手辭) 서울: 진명출판사.